１月例会　レジュメ　（公開版）

（H22 年 1 月 22 日（金）18:00～20:30 開催）

場所　日本技術士会　葺手第二ビル5階　A. B 会議室　　参加者　４２名（発表者含む）

演題　：「原子力発電所の事故･トラブル事例から診た安全文化の劣化兆候」

牧野　眞臣(ﾏｷﾉ　ﾏｵﾐ)（独）原子力安全基盤機構　原子力ｼｽﾃﾑ安全部　特任参事

意見交換会「真の安全文化の醸成に向けて」

総合司会：鈴木幹事、意見交換進行役：桑江幹事、

概要：　**1)「原子力発電所の事故･トラブル事例から診た安全文化の劣化兆候」**

原子力発電所の安全の問題には、その重要性にふさわしい注意が最優先で払われなければならない。安全文化とは、そうした組織や個人の特性と姿勢の総体である。脆弱な安全文化が組織内に定着すると安全実績の低下が表面化する。この時点で、その根本的な原因を特定し、自己修復できない場合は、いずれ安全問題が発生することになる。このため、プラントが深刻な状態もしくは大きな事故状況になる前に、安全文化劣化の兆候、安全性能低下の兆候をできるだけ早い段階で検知することが重要となる。

牧野　眞臣　氏

本講演では、安全文化が取り上げられてきた経緯、安全文化の考え方や定義に始まり、主に規制側の視点から見た、わが国の原子力発電所における具体的なトラブル・事故事例を用いた要因分析結果から診える安全文化の劣化兆候を考えるとともに、逆に安全文化の醸成活動としての推奨事例も紹介し、合わせてその評価方法について解説した。

また、質疑の中で、「プラントにおける不適合事象の発生数は減少する一方、ソフト(人的要因によるエラー)を原因とするものの割合が増加している。」「ハードのトラブルは本格的な原因究明が行われるが、人に関連する原因究明は不足している。」といった指摘を行い、さらに、一見人的要因による不適合事象も、個人に起因するものより、コミュニケーションの問題等、管理的側面が根本原因となるものが増加しているため、個人の技術研修だけではなく、背後の組織管理面の改善を検討すべきである。と述べられた。

2)意見交換会「真の安全文化の醸成に向けて」

桑江幹事より、『14の安全文化要素』と技術士法、倫理規程等の内容は良く合致していることや、『安全文化の3層モデル』等から安全文化の醸成における個人の意識の重要性などを指摘した上で、真の安全文化の醸成に向けてどのように取り組むべきか?と問題提起後、自由討論を行った。

〇規制当局が行う「事業者の安全文化」に関する評価

〇『安全文化の3層モデル』と技術士の貢献のあり方

〇『安全文化』と『倫理』の位置づけ

などについて活発な意見交換がなされた。

意見交換会の風景

閉会予定時刻を過ぎ、「原子力分野では組織の壁を超えて本音で議論する場は少ない。原子力・放射線部会では、それが可能であるため、今後も継続的にこのような場を設けていきたい。」との進行役の言葉で閉会した。

以　上